

渚滑小学校

紋別市立渚滑小学校スキー学習

なかなか雪が積もらず、スキーをあきらめかけたところに臨時休業になるくらいの雪が降りました。子どもたちはスキー場がオープンしているのかどうか確かめに行くくらいスキーができることを楽しみにしていたようです。当初の予定では、3回のスキー授業でしたが、2月14日と18日の2日間のみの実施となりました。



2年生以上は、1年生の時からリフトに乗って滑り降りることができているため、初すべりであってもすぐに慣れて滑ることができました。

1年生3人は、初めてのスキーです。学校の周りやグラウンドで歩いたりちょっとした坂の上り下り練習をしたりしてきました。しかし、長い坂を滑る経験があり

ません。渚滑小学校は、全校で9名の児童がいます。そこに指導する先生が6人います。1年生3人に対して先生が2~3人がついて、教えています。そのため、「あっという間」にリフトに乗って滑れるようになりました。ゲレンデの上の方は急なため、先生の補助が必要ですが、中盤になると、自分で滑ることができるようになりました。



2月18日はスキー学習最終日。ラスト1本を滑るときには、児童がどのくらい上手になったかを全校児童や先生にお披露目します。みんなが見守る中、ドキドキ緊張しながら1人で滑ります。すると、児童や先生方から「おぉ〜」と歓声が出ていたことが印象的でした。滑り終わった児童たちの顔を見ると、満足さがよく伝わったスキー学習なのでした。



渚滑中学校

生徒主体の取組

全校生徒25名の本校の特色の1つに、生徒が企画運営する活発な活動があります。例えば、新生徒会役員が行った活動に限ってみても、生活厚生委員会が主催し全校で「キンボール」に挑戦した球技大会、生徒会本部が主導して行った全校レク、学習文化委員会によるクイズ大会などがあげられます。これらの行事は、各委員会の役員が話し合いを重ねて企画を練りました。話し合いでは、全校で取り組めて全員が楽しめるように、他の生徒のことを思い、相手の立場に立って考える姿が見られました。互いを思いやり、学年の垣根を越えて交流する活動を通して、「チーム渚滑」としての一体感を高めることができました。また、生徒が主体的に取り組むことで、リーダーとしての成長も感じられました。



枠を外した3~4名ずつ全部で6つのグループを作りました。そして、グループごとにパワーポイントを用いてレポートを作成し、体験したことや調べ考えたことを発表し、お互いに評価し合う発表会を実施しました。これらの学習を通じて、生徒たちは、より伝わりやすいまとめ方や発表の仕方を工夫し、互いに高め合いました。



この発表会で選ばれた2グループが、北方圏国際シンポジウム「教育シンポジウム~中学生の部」において、「聴覚障がい」と「視覚障がい」について発表をしました。相手意識を大切にし、質疑応答にも一生懸命答える姿はたくましさも感じられ、よい経験とすることができました。



北方圏国際シンポジウム(2月19日)

後期総合的な学習の時間では、今年度は福祉分野を学習しました。この成果をまとめるために、全校生徒が学年の

特認校として!

本校は紋別市内全域から入校することができる特認校です。今回は少人数を生かした特色ある教育活動の一端を紹介しました。本校の教育活動に興味を持たれた方へは、学校見学や入校相談を随時行っております。その折には本校へお電話ください。